

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
76	川崎市立宮前平小学校	二川 義明

学校教育目標	今年度の重点の目標
<p>・「今日も楽しく 明日が待たれる学校に」 あふれるあふれるみんなの笑顔 つながるつながるみんなの心 かがやくかがやくみんなの未来 楽しく学び合う子 ひびき合い高め合う子 進んで挑戦する子</p>	<p>①特色ある学校づくり ②豊かな心・健康な体の育成 ③確かな学力の育成 ④地域に開かれた魅力ある学校づくり</p>

評価項目	具体的な取組	成果及び課題	具体的な改善策
①特色ある学校づくり	一人ひとりを大切に 児童支援体制の構築	・児童支援コーディネーターを中心に「児童支援」「特別支援教育」「教育相談」を進めてきた。登校不安、学力不足等、不安をかかえている児童・保護者との連携を図った。児童支援に関する情報収集を行い、全教職員で共通理解し、支援体制を確立した。児童のトラブルに関する状況把握、事案の報告・連絡・相談を適宜行い、早期解決につなげた。学校体制で指導にあたるよう努めた。	・支援教育コーディネーターを中心として、児童一人ひとりのニーズに合わせた支援を継続し、支援の必要な児童への対応を続けていく。保護者の理解を得ながら、取り出し指導など個別指導の一層の充実を図る。迅速な対応、丁寧な対応を常に心掛け、共通理解のもと児童指導にあたる。担任を始めとする教員や教育ボランティアとも協力体制をとり、学校全体で特別支援教育にあたる。
	「宮前平スタンダード」をもとに 安全で安心できる環境づくり	・児童・教職員が安全・安心して過ごせるように、川崎市のガイドラインにそった「学校生活についてのスタンダード」を基に実施する。普段から日々の健康安全教育を徹底し、教職員間の共通理解、学校医との連携、学校保健委員会の活用を図る。新型コロナウイルスやインフルエンザ感染防止のための教育環境を整える。	・「宮前平スタンダード」の見直しを図り、アイデアを適宜出し合いながら、児童・教職員の安全・安心な教育活動を行っていく。保護者との連携によるアレルギー対応の実施と職員間での共通理解を図る。熱中症防止や校舎・遊具等の老朽化に伴う安全点検を継続して行う。
	人とかかわりを大切に 心や自治力の育成	・異学年から構成される縦割り活動や児童会活動を通して、児童相互の関わりを大切に心や自治活動を育成する。特別活動の学習や日常の指導を通して、「望ましい人間関係の育成」に努める。	・「なかよし班活動」による異学年の縦割り活動では、豊かな心と児童の自治力育成に有効であった。作品鑑賞会や交流学年の組み合わせ等工夫しながら活動を進め、互いを認め合う交流を大切にした実践を引き続き行う。
	自己や他者を尊重する 心の教育	・日々の児童間の関わり、道徳の時間やキャリア在り方生き方教育、共生・共育の実践等で、自己や他者を尊重する心の教育を進める。	・効果測定の結果を生かしながら、学年・学級集団の指導を行う。「心の問題」についても意見交換し、慎重に対応していく。「SOSの出し方・受け止め方教育」を進める。
②豊かな心・健康な体の育成	全職員の情報交換による 児童理解	・毎週行う打合せで全教職員が児童指導の共通理解を図る。毎月1回児童支援部会(各学年1又は2人参加)を開催し、各学年や学校全体の問題点や改善点について話し合い、全体へ伝達し、情報を行う。	・児童支援部会や、打ち合わせ時の情報交換、主任会により児童の共通理解を図った。支援教育コーディネーターが中心となり、外部機関や通級指導教室と連携し、成果をあげた。取り出しや入り込みの指導体制の構築に努めた。
	いじめや不登校の未然防止、 早期発見、早期対応	・いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止対策会議を設置する。いじめの早期発見・早期対応を図り、チームで対応する体制を強化する。	・児童支援部会や、打ち合わせ時の情報交換、主任会により児童の共通理解を図った。支援教育コーディネーターが中心となり、外部機関や通級指導教室と連携し、成果をあげた。取り出しや入り込みの指導体制の構築に努めた。
	気持ちのよい挨拶や丁寧な言葉遣いの 迎行	・毎月の生活目標を明確にしたり、教職員自ら児童の手本となったりするなど、年間を通じて、気持ちのよい挨拶や丁寧な言葉遣いの迎行を行う。	・「なかよし班活動」による異学年の縦割り活動では、豊かな心と児童の自治力育成に有効であった。作品鑑賞会や交流学年の組み合わせ等工夫しながら活動を進め、互いを認め合う交流を大切にした実践を引き続き行う。
	防災・安全指導、 清掃活動の充実	・防災訓練・防犯訓練を計画的に実施し、日頃より非常時に対応できる体制づくりを行う。教職員による登下校指導、スクールガードリーダーなどの巡視や、PTAのパトロール、地域の見守り活動などを実施する。近隣校と情報交換を図り、事前に危険を回避する。	・効果測定の結果を生かしながら、学年・学級集団の指導を行う。「心の問題」についても意見交換し、慎重に対応していく。「SOSの出し方・受け止め方教育」を進める。
	計画的な児童の 体力向上の推進	・「きらきらタイム」や休み時間の外遊び等を通して、児童の体力向上を計画的に推進する。	・児童支援部会や、打ち合わせ時の情報交換、主任会により児童の共通理解を図った。支援教育コーディネーターが中心となり、外部機関や通級指導教室と連携し、成果をあげた。取り出しや入り込みの指導体制の構築に努めた。
授業目標の明確化と 展開の工夫、評価に よる授業の改善	・評価委員会を中心に、指導内容の進捗を確認しながら本校の学習評価の共通理解を図る。新学習指導要領に沿った授業づくりやカリキュラムを編成し、指導と評価の一体化に向けた共通理解を図る。	・児童が主体的に学ぶ授業づくり、新学習指導要領実施を捉えた授業づくりを目指した。評価委員会を中心に学習評価について、指導と評価の一体化を目指した評価の在り方をもとにして共通理解を図り、児童・保護者への理解を図った。	

③ 確かな学力の育成	学年の協力教授や個別支援による基礎・基本の定着	・学年間の協力教授や個別支援により基礎・基本の定着を図る。教員指導の協力体制の強化を図る。学年会を充実させるとともに、安心して相談できる職員集団を実現する。	・学年の協力教授や支援が必要な児童に対しての取り出しによる個別支援や授業に入って支援をする入り込み指導等、一人ひとりの学力に応じた手立てを行った。	・児童の学習内容の定着に向けて、学年内の教科担任制による交換授業、支援が必要な児童の取り出し、入り込みの指導を継続して行っていく。
	職員の資質・指導力の向上、主体的に学ぶ児童の育成	・研修・研究等により、教職員の資質・能力の向上を図る。「発見！創造！発信！～夢中で考え伝え合う子～」の実現に向けた研究テーマを設定し、主体的に学ぶ児童の育成を目指す。	・様々な授業の中でGIGA端末を有効に活用して、より「主体的・対話的で深い学び」につながるよう、情報の選択や発信の方法、交流方法の選択肢等、児童の学びが広がり、日々の授業改善に取り組んだ。	・主体的な学びに繋がる思考力・表現力を身に付けさせるための更なる研究の充実を図る。外部講師を招いて教員の授業力向上をめざすとともに、児童の主体的な学びを育む授業づくりを追究する。
	専科、TTの充実による職員の情報共有や協力体制の強化	・専科（音楽）、教科担任（体育）による専門的な指導の充実を図る。学年ごとの学習・生活の応援体制を整え、多数の教員で児童の実態を見る。	・チームティーチングの授業体制、音楽や体育、書写は専科・教科担任にして、様々な教員が多面的に児童を見ていく体制づくりができた。	・教員の人数配置を考慮して、専科、少数数指導、学年での教科担任制による交換授業を推進し、児童の実態を複数の教職員で把握する。児童理解の視点を広げる。
	外国語科・外国語活動の実践と改善	・ALTや教育支援サポーターの支援を有効活用し、低学年のから中学年以上の外国語の教科制の環境を整える。	・学級担任及びALTとの授業内容に関する連携を適宜行い、授業実践と改善を継続的に行なった。	・ALT及び教育支援サポーターの支援を有効に活用しながら、充実した授業、確かな評価の実践に取り組む。
④ 地域に開かれた魅力ある学校づくり	地域協力者による学習の充実	・学校行事や学年毎の体験学習の一環として、外部講師による出前授業や体験的な学習を計画的に実施して、児童の学習意欲を高める。	・学校行事（運動会）や各教科、学年に応じて様々な分野の外部講師による体験学習を実施してきた。児童の学習意欲を高め、学習内容を深めることができた。	・様々な教科で、可能な限り専門的知識を有する外部講師や地域協力者による体験学習を取り入れ、学習に広がりを持たせ、児童の主体的な学びの実現をめざす。
	保護者と地域との協力体制の構築	・図書ボランティア、外国語活動、学習支援等の充実。・教職員に、PTA・地域行事（夏祭り、防災訓練、運動会等）、地域教育会議イベントへの積極的な参加を促す。・PTA主催・教職員による行事「キラ☆どきワールド官前平」を広く保護者、地域の方々に知らせ、共に楽しむ。	・図書ボランティアの方々のご協力により、学校図書館の常時開館や本に親しむ生活を実現することができた。新型コロナウイルス感染症の扱い緩和されたこともあり、PTA主催「キラ☆どきワールド官前平」や地域行事（夏祭り・防災訓練）が計画的に行われ、PTAや地域との関わりを体現できた。	・地域の中の学校として、保護者・地域との連携を大切にし、学習支援や様々な学校行事等の充実を図る。今年度の取組や成果を積極的に保護者や地域の方々へ広報し、来年度の予定等、早めにお知らせし、協力が得られるようにする。児童には、地域の一人という意識と感謝の気持ちを持って、自ら協力するという教育を進める。
	学校公開、学校評価による教育活動の改善	・授業参観や「コミ&コミスクール」（学校公開日）、各学年の学習発表会等への積極的な参加を呼びかけ、アンケート数値や意見をもとに教育活動の改善、良い運営を図る。	・社会の状況を見極め必要な感染対策を行い、予定されていた行事、授業参観や懇談会、学校公開、学習発表会は全て行うことができた。アンケートにより、各行事の改善	・児童の活動の様子を知る機会を定期的に設定し、地域でどのような子ども達を育てるのか、「目指す子ども像」「目指す学校像」を共有し、連携・協働していく。
	学校運営協議会と地域教育会議との協力連携	・学校運営協議会の開催（年2回）と、地域教育会議に参加し官前平中学校区5校連との協力体制を整える。	・学校運営協議会を参集で行った。学校の取り組み、成果や課題等を報告し、今後の学校運営について意見を頂いた。地域教育会議は、5校連で情報交換を行った。	・「学校教育推進会議」を母体とした学校運営協議会をスタートさせ、地域とともにある学校、社会に開かれた教育課程をめざす。
	幼稚園・保育園、中学校との連携	・幼稚園・保育園からの引き継ぎや中学校との連携を密に対応しながら、「小一プロブレム」「中1ギャップ」等の問題に対応する。	・異なる環境を想定し、小学校の生活にスモールステップで無理なく慣れるようなカリキュラムの設定をした。中学校との教員交流・情報交換や6年生の体験入学を行った。	・幼稚園・保育園との情報交換や引き継ぎ、中学校との交流の機会を設け、児童が異なる環境で安心して生活できるように、連携を密に図る。
GIGA端末の活用方法の探究・推進	・GIGAスクール構想研究協力校としての実践を生かして、校内研究と共に、各教科において、GIGA端末の活用方法を探る。	・GIGAスクール構想ステップIIの実現に向け、授業改善を進めた経験を、校内研究での取組や教職員の業務改善に生かしていく。	・GIGA端末の操作技術や授業での活用の向上を生かし、各教科の目標達成に向けての活用や、さらなる使用方法を探り、積極的に情報発信をしていく。	

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○新型コロナウイルス感染症の対応が緩和された以降の子ども達の様子や各クラスの授業を見学して頂き、授業の雰囲気や現状の取組について知って頂けた。</p> <p>○子どものSNSによるトラブルが実際にあるのか。学校に来れない子どもについて、どのように子どもの状況をキャッチして、対応していくのかについて意見交換があった。</p> <p>○教職員の多忙化を心配して頂いた。また忙しい教員をどのようにフォローしたら良いかについて意見を頂いた。かつては、授業支援や各行事の折に保護者のボランティアに入ってもらったことが多かったが、そうした人材を生かすことも必要なのではないか。</p> <p>○挨拶の励行、「有難う」の感謝の言葉が言えることが、とても大切であることを改めて認識することができた。</p> <p>○子ども達からは、地域の盆踊りや運動会、防災訓練ができるようになったことは良かった。特に、PTA主催の「キラ☆どきワールド官前平」が開催されて嬉しかったことが挙げられた。更に「学校と地域をつなぐイベント」の開催や「地域対抗・学校対抗の運動会」を開催するのはどうか等の意見も出された。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の対応が緩和され、学校行事や地域主催の行事が再開され、子ども達、保護者の皆様、地域の方々にご協力頂きながら、乗り切ることができた。「学校を楽しくしたい」「みんなを元気にしたい」との思いを大切に考え、「運動会」「なかよし班活動」、遠足や校外学習、ゲストティーチャーを招いての体験授業、授業参観、学習発表会等、様々な行事や活動を行うことができた。コロナ禍後に試みたものや改善すべき点を生かしながら、子ども達と教職員が工夫と改善を重ねて行ってきた。今年度得た知見を糧にしなから、児童と教職員の次年度の更なる自主的な活動を支え、発展させていきたい。</p> <p>・子ども同士の交流を大切にし、主体的な学びを具現化すべく授業に取り組み、教職員がしっかりとつながり、情報を共有しながら、一人ひとりを大事にした指導・支援に努めた。</p> <p>・学校評価アンケートでは、「楽しく学校生活を送っている」の設問に児童88%、保護者94%が楽しく学校生活を過ごしていると回答している。一方、「困った時に相談できる」については、児童が安心して学校生活を過ごせるために、全ての職員に対して心情を理解しながら相談しやすい関わりや環境を整える必要がある。「気持ちのよいあいさつをしたり、丁寧な言葉づかいをしたりしている」の設問には92%の児童が「そう思う」と回答している。多くの児童が学校生活を良好な友人関係のもと楽しんでいると思われる。「授業はよくわかる」の設問では93%の児童が「そう思う」と回答している。学習に対しても意識が高いと言える。教職員が子どもたちの主体的な学びを意識し、わかる授業、楽しい授業をめざし、授業力向上に努めてきた成果や各家庭の高い教育力と学校に対しての理解と協力によるところが大きいとも捉えている。一方、学習した内容を共有したり、活用する力の育成には課題が残る。今後は、さらに児童の気持ちに寄り添った温かい丁寧な指導、個に応じた児童支援を全教職員の共通理解のもと充実させていきたい。また学級・学年での指導体制を整えながら、支援教育コーディネーターによる教育相談、個別の取り出し指導、入り込み支援、支援会議等もさらに充実させていく。来年度は、全ての児童が「学校は楽しい」と思えるような学校を目指し、引き続き、児童支援に力を入れる。全教職員で知恵と工夫を出し合い、さらに教育活動を整えていきたいと考えている。</p>